

モニタリングサイト 1000 の概要

○ モニタリングサイト 1000 とは

モニタリングサイト 1000 (正式名称:重要生態系監視地域モニタリング推進事業)は、全国の様々なタイプの生態系(高山帯、森林・草原、里地里山、湖沼・湿原、砂浜、磯、干潟、アマモ場、藻場、サンゴ礁、小島嶼)に 1000 ヲ所程度の調査サイトを設置し、長期継続してモニタリングしていく事業です。モニタリングで得られたデータを分析することにより、生物種の減少などを捉え、適切な保全施策につなげることを目的としています。

生物多様性センターは、平成 15 (2003) 年度から、このモニタリングサイト 1000 を開始し、全体の枠組みの構築、調査項目及び手法の検討、調査サイトの設置及び調査等を実施しています。

○ 調査サイトの設置と調査方法

我が国の自然環境の変化を把握するため、森林、里地里山などの生態系タイプごとに、全国的な生態的地域区分を考慮しながら調査サイトの設置を進めており、これまでに 1028 サイト(一部暫定箇所を含む。)を設置しました。

各生態系タイプにおいて重要な機能を果たす指標生物群の種組成や個体数等を定量的に調査することで、生物多様性及び生態系の状態とその変化を把握します。

○ 調査体制の構築と調査成果の活用

調査の実施に当たっては、関係する研究者や地域の専門家、NPO、市民ボランティア等とネットワークを構築し、調査の継続性を図っています。また、上記の調査関係者との間に情報共有の仕組みを構築することにより、迅速かつ精度の高い情報の収集及び利用を進めています。

収集された情報は、生物多様性センターにおいて蓄積・管理し、年次報告書、速報等で逐次公開するとともに、5年ごとに総合解析を行います。これらの調査結果は、モニタリングサイト 1000 のホームページ(※)等を通じて広く公開していきます。これにより、国はもちろん、地方自治体、NPO、市民ボランティア、研究者、学校などにおいて幅広く活用されることを期待しています。

※モニタリングサイト 1000 ホームページ

URL : <http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>

モニタリングサイト1000 調査項目及びサイト設置状況

2009年12月1日現在

※暫定のサイトを含むため、サイト数は暫定値

分野		調査サイト	主要調査項目	サイト数(※)	調査主体	
陸域	高山帯		①物理環境調査(気温、地温) ②植生調査(植生、ハイマツ節間成長、開花フェノロジー) ③昆虫調査(チョウ類、地表性甲虫)	5	研究者	
	森林・草原	コアサイト (毎年調査)	①植生概況調査 ②毎木調査 ③落葉落枝調査 ④地上徘徊性甲虫類調査 ⑤陸生鳥類調査	20	研究者	
		準コアサイト (5年毎に調査)	①植生概況調査 ②毎木調査 ③陸生鳥類調査	29	研究者	
		一般サイト (5年毎に調査)	①植生概況調査 ②陸生鳥類調査	422	市民調査員	
	里地	コアサイト	①人為的インパクト調査 ②草本植物調査 ③水環境調査 ④指標動物調査(6項目)	18	市民調査員	
		一般サイト	コアサイトの9調査中から1調査以上	179	市民調査員	
	陸水域	湖沼 湿原	コアサイト	①植生概況調査 ②プランクトン調査 ③魚類調査	30	研究者
一般サイト			①湖沼概況調査 ②ガンカモ類調査	81	市民調査員	
海域	沿岸・浅海域	砂浜	①海浜概況調査(面積、植生) ②ウミガメ産卵上陸状況調査	41	市民調査員	
		磯	①底生生物調査	6	研究者	
		干潟	コアサイト	①底生生物調査 等	8	研究者
			コアサイト 一般サイト	①干潟概況調査 ②シギ・チドリ調査	123	市民調査員
		アマモ場	①海草調査 等	6	研究者	
		藻場	①海藻調査 等	6	研究者	
		サンゴ礁	①物理環境調査(底質、底質中懸濁物含有量) ②生物生息把握(サンゴ被度、オニヒトデ調査等)	24	研究者	
		島嶼のうち 小島嶼	①植生概況調査 ②全生息鳥種調査 ③対象種調査	30	研究者	
合 計				1028		